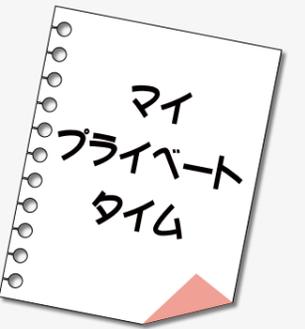


夢を追い続ける野球少年

あしや
芦屋市長(兵庫県) **山中 健**
やまなか けん
Ken Yamanaka



還暦を越えた今でも120キロ近いスピードが

野球をやっていたおかげで多くの友も得ることができました。
還暦を越えた現在でも市の野球協会や少年野球のお世話ができるなど、野球との縁がいまだに続いている幸せを感じています。現在は年に1、2度しかユニホームを着られませんが、それでも120キロ近くは投げられます。
今でも時々満員の甲子園でプレーしている夢を見ます。緊張の中、バッターボックスに入るところで目が醒めて「あー夢で良かった、でもちょっと残念」と思いますが、元高校球児なら「一度でいいから甲子園のマウンドに立ってみたい」と誰でも思うでしょう。甲子園の土は何度か踏みましたが、マウンドまでは遠すぎてなかなか実現しません。
いつか始球式というお話があって、投



風光明媚な国際文化住宅都市、芦屋

世界でとびっきりのまちを目指して
芦屋市は市域が南北に細長く、北から南へゆったりとなだらかな坂になっていて、どこにいても山と海が眺められます。北は緑濃い六甲の山なみ、南は穏やかな瀬戸の海。川が流れていて、まちは緑も花もいっぱい、人もまちなみ品性があるておしゃやれで、そして大阪へ15分、神戸へ10分という便利さ。日本で唯一の「国際文化住宅都市」です。
市長に就任しました翌年の平成16年1月1日付けで「芦屋庭園都市宣言」をして、本物のガーデンシティにしようとして、一年には日本で初めて全市を景観地区に指定し、また昨年からは芦屋川の全流域を特

別景観地区指定にして良好な住環境を守っているところと聞いています。
「住環境・景観」については世界のトッププランナーでいたいと思っていますし、世界中の人が「日本の芦屋という美しいまちへ一度は行ってみたい」と言われるようなまちづくりをしています。
自転車通勤で
就任後約2年は出勤時のみ迎いの公用車を利用していましたが、その後もう6、7年はマイ自転車通勤で登庁して、健康面から始めた自転車通勤ですが、思わぬ副産物もあって、環境面の効果も言うに及ばず、車に乗っていたら分からない歩道と車道の段差やでこぼこ、樹木の枝の張り出しなど整備しないといけないところがいっつも見えてきます。また家を出て市役所に着くまでの15分の間に何人も人との笑顔のあいさつも「さあ今日も頑張ろう」と元気にしてくれます。
普段の行事の時はもちろん公用車を使いますが、市長専用車も廃止し、1台を特別職で共有することによって、かつての市長・助役それぞれ専用車があった時と比べて走行距離は5分の1以下になりました。マイ自転車を通勤以外に利用することもあれば、昨春秋に市民団体のオーグションで当てた2台目が活躍してくれて快適な自転車ライフを楽しんでいます。
冷や汗、でも最高の経験
市長在任のこの9年間、というより人生の中で忘れられない貴重な経験をさせていただいたのが、日本一のアマチュア楽団「芦屋交響楽団」を前にタクトを振るということでした。私の最も縁遠いジャンルでしたので、絶対あり得ないことだと思っていました。
音楽の催しで、満員のお客さまの中で、急に当てられて登場という設定でしたが、事前にテープもいただいていたので、プログラムス作曲「ハンガリー舞曲第5番」で、それを擦り切れるまで聞いて頭に覚えさせていましたが、日が迫ってくるにつれ緊張感が高まってきました。
前に居並ぶ演奏者たちの温かい笑顔に若干心は落ち着きましたが、とても髪振り乱して途中で指揮をする余裕などありませんでした。
それでも終わっていたいた大きな拍手は、プレッシャーから解放された喜びとともに一生忘れられない感激でした。司会者から「普段の市政運営とどちらが大変ですか？」と聞かれて「もちろん今日です」と答えました。冷房の効いていたホー

スポーツは何でも見るのも好きですが、物心つく前から野球でした。生まれて産湯に入れようと思ったらい、どこに行ったのかと探したら近くのグラウンドに行っていた、と親が言うほどでした。影響は野球好きの父で、小さい時から日曜日のたびにキャッチボールをしていました。幸か不幸か星一徹のような父親だったらまた違う人生を歩んでいたでしょう。
甲子園に出たい、との思いから高校も出場できそうな学校を選び、おかげさまで甲子園に行くことができました(見)。学生の時は準硬式でしたが、それでも4年連続全国大会にも出場できましたし、



颯爽と自転車で登庁

野球との縁

生まれて産湯に入れようと思ったらい、どこに行ったのかと探したら近くのグラウンドに行っていた、と親が言うほどでした。影響は野球好きの父で、小さい時から日曜日のたびにキャッチボールをしていました。幸か不幸か星一徹のような父親だったらまた違う人生を歩んでいたでしょう。
甲子園に出たい、との思いから高校も出場できそうな学校を選び、おかげさまで甲子園に行くことができました(見)。学生の時は準硬式でしたが、それでも4年連続全国大会にも出場できましたし、



生まれて初めての指揮

座右の銘

「得意淡然 失意泰然」
人生何事もうまくいっている時は、いけいけになって、ついつい勇み足になりたり足元をすくわれたりするもの。だから自重して慎重に行動しなさいと。逆に何をしてもうまくいかない時、落ち込んでいる時こそ堂々としていなさいと。なかなか凡人である私には難しいこと。でもこの言葉があるからこそ、調子の良い時に「得意淡然」だよと、調子の悪いときには「失意泰然」だよと自分に言い聞かせています。